

1991. 1



おひらにす

No. 24

学校法人大阪工大摂南大学図書館報

卒業研究

大学の化学系学科の学部学生の有終の美は卒業研究にある。これは生涯忘れ得ぬものの1つとなろう。将来、専門家として育つための、未知の世界に足を踏み入れる初体験がそこにあるからである。よい初体験をしてほしい。

一般に、卒研課題は、研究室の研究方針に沿った研究の一端を分担する形で与えられる。1つの研究がどのように組み立てられ、推進され、まとめられていくかを体験的に学習するのであるが、その過程での充実感や成功感は、それまでに培った基礎学力、智力、人間徳性の総動員なしには得られないものだというのを、やがて痛感することにもなる。これは、「学部の講義、演習、実験に、もう少し積極的に取り組んでいたら、期間内に期待すべき成果を挙げるべく卒研課題を推進できたのに」という、私自身の卒研に対する苦い思いから出た述懐でもある。

化学の研究分野は種々あり、研究手法も多岐にわたっているが、有機化合物と関わりをもたないものは非常に少ないといってよい。

そこで、有機合成ができるということが、化学の領域の研究を効果的に進める上で大切な要素となる。合成自体が目的となるものも勿論多いが、研究の手段として取り扱う物質や関連化合物群で、市販されていないものを入手したいと思う場合が非常に多いのである。

有機合成のプロセスは、目的化合物について、①文献調査、②合成法（反応経路、条件等）の選定、③合理的実験装置の組み立て、④溶剤類の調製、⑤合成物の単離と精製、⑥合成物の構造確認の手順になる。

手順①で最も大切なことは、原報（第一次文献ともいう。ついでに、抄録、叢書類を第二次

応用化学科教授

西長 明



文献といい、これらの文献の所在を示す目録書や案内書を第三次文献といっている。最近ではコンピュータ検索法が発達しているので、原報を探し当てることは比較的簡単である。)を正しく理解することである。化学の重要な論文の大部分は英語で書かれているので、英語が正確に読み取れなければ研究を円滑に進めることはできない。②は物理化学、無機化学、有機化学の基礎知識の総合的活用なしにはできないといってよい。この段階で、どの程度の知識を身につけているかが問われることになる。③～⑤は研究室の伝承的手法が反映される場合が多いが、基本的には基礎訓練がしっかりできていないとうまくいかない。⑥は各種分析法を総合して行うのであるが、現在、最も重要なのはNMR（核磁気共鳴法）である。最近では、日本を含む世界先進国のほとんどの化学系研究機関で、超電導フーリエ変換NMRが使用されている。工大でも早急に設置することが急務になっているが、この装置を駆使して、得られたスペクトルを解析しなければならない。そのためには、あらかじめ徹底したスペクトル解析演習により解析力を養っておく必要がある。

これらは、研究の手始めに過ぎない。研究をまとめて、1つの仮説に至るまでには、多くの越えなければならないハードルがある。

充実した卒業研究は大きな自信に繋がる。できるだけ早い時期から、世界的水準にある、英語で書かれた教科書、演習書、実験書に親しむのがよい。これらの書物の英語は決して難しいものではないが、馴れるまでに時間がかかるのである。

書と旅行

ある日、動くことの嫌いな一人の友人と一緒に旅行しようと誘った。その時、旅行のいいところをいろいろ言った。

例えば、電車に乗って中国大陸横断の旅をするとしよう。窓から見た大地、建物、動物、植物、川、山と谷がところによって大きく違う。その中で一番目立つのは植物である。異なる土壌と気候のもとでは植物の種類と分布はぜんぜん違う。

しかし、友達はすぐ反駁した。「そういうことについて知りたいのだったら、そういう本にたくさん知っている。中国まで旅行しなくてもすぐにわかることだ。」

僕は田舎が大好きだ。あたり一面のたんぼとか畑とかの中にある、一間のポロ家とかなどの目立たないような風景が好きで、地元の人としゃべり、その生活と習慣を知る。

これもまた友達に反駁された。「そのようなことは全て旅行のガイドブックに詳しく紹介されている。もうたくさんの人が中国の旅行をした。たくさん写真や文章が出ている。そんなところへ旅行しても、ただ人の書いた本の再証明者になるだけである。もし自分の目でいろいろ確かめたかったら、家でビデオを見るだけで、現地へ行くよりもっと便利だ。速いし、安いし、もっとわかると思う。」

確かに、今のように通信が発達している時代では、簡単に知りたい所の資料を集めることが

工大・ID4
リョウ セツ ボ
廖 雪 峰



できる。家から外出しなくても、天地のことがわかるぐらいである。

旅行中にいろいろな人と出会い、いろんなことが発生し、自分の視野を広げることができ、生活経験を増やすことができると思う。

だから、一番大切なのは自分の性格を発見し、視野を広げることである。これらは本から得られることができないと思う。

読書より旅行のいいところばかり言ったが、実はお互い深い関連がある。旅行する前に現地の資料を調べないといけない。関連のある本を読めば読むほど旅行がもっとおもしろくなるでしょう。

中国語では「読万卷書不如行万里路」と言う名句がある。これは、「一万冊の本を読むよりも、一万里を歩く方がもっと勉強になる」と言う意味である。

本で調べた資料は全部人の物語、人の経験であり、自分自身からの体験とは別だと僕は思う。

しかし、僕は一万里を歩いても一万冊の本を読むかわりにならない、一万冊の本を読んでも一万里を歩くかわりにもならないと思う。

だから本と旅行は深い関連があると思う。

(廖雪峰さんは、香港からの留学生で、1年次から在学しておられます。)



『41歳寿命説』

死神が快樂社会を抱きしめ出した』

西丸震哉著

(情報センター出版局)

ショッキングなタイトルとイラスト風の明るい表紙カバーが実に対照的である。

男子の平均寿命は75歳、女子では81歳で日本は世界一の長寿国になったというものの、それを実感できる人は少ないだろう。

自然界に生きていく動物に存在しうる安楽追及願望を、人間のみ文明化によって満たすこと

ができた。

ただし一方、自らの生命を危うくする要因を生み出してしまった。有害物質による水・空気の汚染、はどめを欠いた飽食、知らず知らずのうちに摂取される毒物、ストレスの増加、肉中心の食生活など……。

いま急がなければならないのは、現代人が失ってしまった精神文明の回復であるとし、自説「人生41年」に対する警鐘の書でもある。

わかりやすい表現を心がけている文体は、かえって現実味があり、あながち的外れではなさそうだと思わせてしまう。

[請求記号 491.3 N 第1図書室] (N. S)

シリーズ 淀川ぶらり散策

第15話

「大阪城 その5 秀吉と利休 2」

浅井 三千治

天正17（1591）年2月28日、秀吉の勘気を被った利休は、京都聚楽葎屋町の利休屋敷で蒔田淡路守の介錯により自刃した。その首は一条戻橋に運ばれ、曝されたという。

この日のさまは松梅院日記に、「今日大雨ふり、カミナリなり、あられ、大あられ也」とあり、そして降った霰が如何に大きかったかを表すため、霰の大きさが黒丸で示されている。

雷鳴が轟き、稲妻が走る一瞬、激しく降りしきる雨と霰に打たれる屋敷の松の緑が、閃光の中に色鮮かに浮かび上がる。そして室内では、真っ赤な血が飛び散り、血溜りの中に横たわる利休の遺骸の上に、綾の白小袖が掛けられ、側には妻の宗恩が涙することなく、端然と座している。利休最期の情景は、このようであったと伝わる。まさしく、利休の死が非業の死であったと言うに、ふさわしい情景であるが、おそらく後の脚色であろう。

公表された利休の罪状は、大徳寺の山門の楼上に自己の木像を置き、秀吉を足下におくという不敬不遜な行為、茶器に法外な値段をつけ売買したという売僧（まいす）行為の2つとされているが、いまひとつ説得力に欠ける。他にも、秀吉が利休の娘を所望したのを拒んだのを根に持ってとか、秀吉の朝鮮出兵の企てを利休が一笑にふしたためとか、種々語られているが、利休の死の真相は、よく判らない。そこで、ひとつその真相を推理して見ることにしてみよう。

「とんとある話。あったか無かったかは知らねども、昔のことなれば無かった事もあったことにして聴かねばならぬ。よいか？」

これは、大江健三郎が「M/Tと森のフシギの物語」の中で、祖母が昔話を始める定まり文句として紹介している言葉であるが、この話もそのように聴いてもらうこととしよう。

現代の我われが抱いている秀吉像を、分析し

てみると、出世物語りの主人公でありながら、艱難辛苦を乗り越えて、というような堅苦しいイメージとは違い、ユーモラスなお調子者の姿が浮かび上がる。庶民的で、パフォーマンスし過ぎて失敗を重ねながらも成功する、われらがヒーロー的な存在といえよう。信長の気短かで専制君主的な、光秀の陰湿な暗さ、そして家康の狸親爺の狡猾なイメージ等とは違い、底抜けの明るさが秀吉にはある。これはまさしく「M/T」の物語の中で大江が語っているトリックスターのイメージに重なる。トリックスターとは日本人にはあまり馴染みのない言葉だが、「道化」、目立ちたがりや、ちょうどサーカスの幕間に出て来て、愚かにも面白可笑しく動き回る、あのピエロ的なイメージであろうか。筒井康隆によれば、史上最大のトリックスターはイエス・キリストだという。

トリックスターをユング心理学風に言えば、もう一人の自分、存在としての「影」。この影が歴史の舞台にそのままの姿で登場したのが、秀吉であった。では、本体はどこにあったのか。

秀吉の異父弟豊臣秀長が、豊後の大友宗麟にあてた書状に「内々の儀は、宗易（利休）、公事の儀は宰相（秀長）に」と書き記しているように、祭ごと、治世の実際は、秀長と利休によって執り行われていた。事実、本能寺の変から、利休の死までのわずか9年程の間に、大坂城を造り、徳川・織田の連合軍と戦い、京の北野で大茶会を催し、九州の島津氏や関東の北条氏征伐等々、数々のことが為されているが、秀吉一人の力では到底無理であったろう。いや秀長や利休がこれを担った実体であり、秀吉は歴史という神輿の上で精一杯パフォーマンスしていたと見る方が、分りやすいし、また面白い。ところが、病を患っていた宰相秀長が突然死んだ。利休の自刃の2月前のことである。実体の一方を失った影は、大いに驚き慌てたが、いっぽう足枷がとれた自由さも味わった。いやもう一方の足枷である利休の存在がじゃまに感じられて仕方がなかった。その挙げ句、難癖をつけて利休を死に追い遣った、というのが利休賜死の真相というは、少し無理であろうか。

第15話「大阪城 その5 秀吉と利休 2」完

図書館活用の手引き②

参考文献の求め方

図書館間相互利用サービスと情報検索サービス

論文・レポートと取り組むうえで、参考となる文献資料の収集は、必要不可欠なものです。文献収集がうまくいくかどうかで、論文作成の成否が決まるといっても言い過ぎではないでしょう。

求める文献が本学に所蔵していない場合は、簡単にあきらめないで、図書館の相互利用サービスを利用することをお勧めします。参考文献の探し方を十分把握したうえで、能率的に入手するよう心がけたいものです。

求める文献資料がどの程度必要が判断したうえで、以下の要領で探してみましょう。

その1 本学図書館に所蔵している文献を探す。

図書	「所蔵検索用端末」「カード目録」
雑誌	『雑誌所蔵目録』(本学図書館所蔵目録) 『学術雑誌総合目録』

その2 摂大図書館に所蔵している文献を探す。工大と同様に、閲覧・貸出ができます。そしてカウンターを通して図書を借りたり、文献複写を依頼することもできます。

図書	「所蔵検索用端末」
雑誌	『学術雑誌総合目録』

その3 学外図書館に所蔵している文献を探し、その所蔵館を調べる。

図書	『他大学・他機関の蔵書目録』 『新収洋書総合目録』
雑誌	『学術雑誌総合目録』

その4 レファレンス・サービスを利用する。上記の総合目録等で手がかりをつかめないときは、「レファレンス記録票」に記入し、カウンターに提出して、文献の所在・入手方法等について次の調査を依頼することができます。

++++ 編集後記 +++++

▽「とんとある話。あったか無かったかは知らねども……」史実と物語のあいだにひそむものを洞察し、時代のエッセンスを味わう。そのためにも図書館を大いにご利用ください。

▽4月から当館は、「大阪工業大学図書館」として生まれ変わります。したがって、「中央図書館」として発行する『ぱびろにくす』は本号をもって終わります。

a 文献複写を依頼する。

図書館を通じて、所蔵館へ依頼できます。

b 他大学・他機関図書館を利用する。

図書館が発行する紹介状により、文献の閲覧と複写が直接所蔵館でできます。

c 図書の借用依頼をする。

図書館を通じて、所蔵館へ依頼できます。

d リクエスト制度(図書)を利用する。

是非とも必要な参考文献で、通読したい図書は、「希望図書購入申込書」に記入しカウンターへ提出。

また、外部データベースの導入により、求める情報が、どの刊行物に掲載されているか等を、迅速かつ能率的に探索することができるようになりました。

オンライン情報検索システム

文献情報	「JOIS」「STN」 「DIALOG」 「NACISIS-IR」
	「日経TELECOM」
記事情報	「日経TELECOM」

このシステムは、今のところ教職員の研究用業務用として利用できます。データベースの概要・操作方法・費用の取扱い等利用の詳細については、メインカウンターまで。どうぞお気軽にご利用ください。

本学図書館では、'86年10月から学術情報センターとオンラインで接続しています。そのため、正確な書誌情報が得られるようになり自館を始めとする他館の目録所在情報が、効率的に提供できるようになりました。

今後相互利用サービスは、FAXの普及も手伝って、一層拍車がかげられるようになるでしょう。

学校法人大阪工大摂南大学図書館報

No.24 (1991. 1)

編集発行 大阪工業大学中央図書館

〒535 大阪市旭区大宮5丁目16番1号
TEL 06-952-3131